

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

22号

2014年3月31日



目次

公益信託 高知市まちづくりファンド
2013年度B・Cコース中間発表会

発表会の流れ	2
中間発表会プレゼンテーション	
「B:まちづくりはじめの一步」コース	
「C:まちづくり一歩前へ」コース	3
2013年度中間発表会を終えて	6
運営委員紹介	7
公益信託「高知市まちづくりファンド」とは/今後の予定	8

公益信託 高知市まちづくりファンド 中間発表会

発表会の流れ

2014年1月26日(日)、「公益信託 高知市まちづくりファンド」2013年度B・Cコース10団体による中間発表会が開催されました。参加者(応募団体・一般・関係者)は約60名。昨年7月の公開審査会によって助成決定となった事業の進捗状況を発表しました。意見交流会では、和やかな雰囲気の中、さまざまな意見が飛び交いました。

1 プレゼンテーション



助成先団体が、事業の報告を模造紙1枚にまとめ、発表(3分)。参加者が、各事業についての良い点・質問・提案・その他の意見を付せんに書く。

2 付せん貼りタイム



記入済みの付せんを各団体が発表で用いた模造紙のところに貼る。

3 意見交流



運営委員が、貼られた付せんの内容を団体ごとに紹介し、参加者との意見交流を実施。

B:「まちづくりはじめの一歩」コース

GROUP 1 秋山こだま会 ～これから青春!! まだまだ青春!! 幸せの輪まちづくり～



「ふれあい講座」を4回開催。子ども会や町内会の会長、公民館の館長らに協力してもらっての「敬老会」では、幼稚園児や小学生を含め、123名が参加。人権擁護委員を招いて「いじめ対策」について話してもらった時は、中年層の集客方法に課題があると感じた。また、「共生ケア」や「リハビリ」の講演を桂浜へ聴きに行ったり、「運動器障害予防」について、病院院長を招いて講演してもらったりした。地区民に意義と感動を与えたと思う。特に子どもたちは、朝夕の挨拶ができる雰囲気になった。「ふれあい教室」では、8つの会を月に2～3回、実施しており、月に約100名が参加している。

VOICE

- 広い世代が関わっていることが素晴らしい。
- いじめ対策など社会に役立つことをしている。
- 参加者が多いことが素晴らしいと思う。
- 120名を超える参加者をどのようにして集めたのか?
- いじめの問題、なかなか目に見えないので、継続して行ってほしい!!
- 人生の大先輩が頑張っているのを見て励まされた!
- 宣伝はどのように行ったのか?

GROUP 2 ちっちゃなお店の勉強会 ～ちっちゃなお店の活性化で高知のまちを元気にしよう!～



お店訪問を2回実施。9月の森澤食品は参加者3名で、QC手法による开店計画を話し合った。11月のアートヴィラ設計の見学は参加者5名。また、勉強会は3回の実施で、10月に、菓子製造やアクセサリーのネット販売における開業エピソードや、仕事に対する思いを聞いて意見交換をした。参加者7名。12月は、ISO等の認証基準のコンサルや生産管理等のサポートを行っている技術士から、小さなお店向きの仕事の仕組みづくりや、上手な運営方法などについての話を聞いた。参加者6名。1月、事務代行開業への道のりと思い、個人事業の事務の話を受けて意見交換をした。参加者9名。今後、活動内容を絞り込みたい。

VOICE

- 私もちっちゃなお店がもっと活躍できればと思っていますのでスゴイと思う。どんだん力を入れてほしい。
- 勉強会で、他店との話(交流)ができるのはいいと思った。
- お店に最初、コンタクトをとるときは、どのようにしているのか?
- 起業を目指す人とつながる仕組みはあるのか?
- もっと多くの人に参加してもらえるようにしたい。商工会議所とかと、何かしては?

C:「まちづくり一歩前へ」コース

GROUP 1 特定非営利活動法人要約筆記 高知・やまもも ～要約筆記で情報バリアフリーのまちに!～



聴覚障害者や周辺の人たち、志のある人への情報発信をするため、要約筆記の活動を紹介したパンフレットと動画を作成した。動画は当団体のホームページに載せ、閲覧数は昨年12月末で延べ8,659回。動画掲載前の約2倍となった。また、要約筆記の活動現場で休憩時間を利用しての放映も実施した。パンフレットは、実に10年ぶりの更新で、現状に則した活動紹介や問い合わせ先を分かりやすく紹介。市内の医療機関27カ所、障がい福祉課や窓口センター等に配布。今後は、ふれあいセンター、市内公民館、補聴器専門店、専門学校、郵便局、関係団体、市内公共施設等にも配布して、5～6月に活用状況を確認したい。

VOICE

- 動画を作成して自分たちの活動を発信している。
- 組織がしっかりしている。さすが。
- NPO法人化した理由を教えてください。
- 市民が要約筆記への理解を深め、具体的にお願しようかなと思えるところまで、つなげているところが良い。
- 筆記依頼は無料か？
- これまでの要請件数は？
- 活動を知ってもらう機会を様々なもので設けている。
- TVでも見た。広報活動に力を入れていて素晴らしいと思う。

GROUP 2 食を考える委員会 ～食べることから始まる、元気なまちづくり～



食事支援のための調理講習会を2回開催。9月は40名の参加で、管理栄養士が食べることの大切さを話し、トマトを使った料理実習をした。11月は26名の参加で、管理栄養士からバランス食について話し、レンジを使って時間短縮する実習をした。ヘルパーにもっと参加してもらうようPRしていきたい。4月は歯科衛生士から口腔ケアについての話と、咀嚼・嚥下に配慮した軟らかい食事の調理実習を予定している。レシピ集の作成については、1月にヨンドンプラザで試作調理、写真撮影、レシピ内容の検討等を行った。3月中の完成をめどに進行中。ヘルパーの日々の助けとなるようなレシピ集にしたい。

VOICE

- 活動をしながらかアンケートにより課題を挙げて、次のステップへの取り組みがいい!
- 実習と講義を両立している。
- 講習会の広報案内は、どのように行っているか?
- 実際、現場のヘルパーさんは仕事がいっぱい、なかなか講習会に来られないと思う。具体的な対策は?
- レシピ集に高知ならではの食材を!
- 食から見える介護課題を、多方面につなげてほしい!

GROUP 3 森の中の高知駅 ～木を、花を植えよう、森をつくらう～



10～11月、土佐電鉄の線路脇に、パンジー、ピオラ、ペチュニア、ノースフォール、宿根等の花植えをした。チューリップも芽が出てきているので、2～3月には、これらの花が綺麗に咲くだろう。PR活動は、実施したことや翌月の予定をまとめた「お知らせ」を月1回配布している。中央公園北側の帯屋町でもギターライブをしながら配った。土佐電鉄脇120平方メートル、県の方が30平方メートル、3志士像の前にある箱への水やりを、天気や土の状況を見ながら自分がやっているが、1回につき2、3時間かかるのが大変。関係機関、県、市、議員のところにも行って話をしてみたが進展はみられない。

VOICE

- 緑が多くなって優しい花が出迎えてくれる駅は、誰もがほっとする場所だと思う。今後も頑張してほしい。
- 日々高知駅の周りの緑が多くなっているのを楽しみにしている。ありがとう!
- きれいな高知駅で地域や利用者もマナーが良くなると思う。安全・安心につながる。
- 次の担い手を探すことが必要になると思うが、メンバー増加のための働きかけは?
- 近くの学校や一般の人たちと一緒に植える作業やお世話をすると良いと思った。

GROUP 4

こうちネットホップ

～みんなで考えるホームレス支援と貧困問題～



20時半～22時の時間帯で夜回り活動を続けている。今年度は高知市社会福祉協議会や行政機関と連携し、幅広い人に参加してもらい、ホームレスの実態について考えてもらった。また、新たな支援の幅を広げるための啓発活動として講演会を実施。現役のケースワーカーと元生活保護受給者の意見を聞きながら、生活保護の問題について考える場をつくった。これまで参加者は60～70代が多かったが、今回は10～20代が多く、福祉の問題に関心をもつことが若い層に広がってきた。今後は専門機関やホームレスの集まりやすい施設とも連携し、路上生活を終えるための仕組みや体制もつくっていききたい。

VOICE

- 活動の広がりが感じられて、とてもよかった。嬉しく思う。特に年齢層の厚みは、高知市の未来があたたかいものと嬉しい限り。
- 行政と連携しているところが素晴らしい。
- ネットワークができることで、どういった問題が解決するか?そのために必要なネットワークとは?
- 夜回り活動の場所と効果は?
- 活動の最終的な目標は何?
- 活動の広がりを感じる。高知市や社協などの連携は今後が楽しみ。

GROUP 5

高知街ラ・ラ・ラ音楽祭2013実行委員会

～音楽のチカラでまちを元気に!～



今年は1会場増やし、高知市中心部に10会場のステージを設けた。当日ボランティアは高校生から60歳代が参加。天候が悪かったが、アーケード内はぬれなかった。公募により参加したプロ・アマ、ジャンルを問わない県内外129組、451名のミュージシャンが演奏。いろいろな会場を回ってもらうために、今年はスタンプラリーも実施し、まちで活動しているファンドの助成先2団体を組み込んだり、助成先4団体の活動を紹介する場を提供したりもした。今後、当日ボランティアには、若い人や音楽好きな人以外にも参加してもらって、もっと、つながっていききたい。

VOICE

- まちファンを通して他団体との交流を深めているところがとても素晴らしいと思う。まちファンを活かしている。
- スタンプラリーはとても楽しかった。街中での滞在時間が増えたと思う。
- 一会場増やせて良かったし、他団体とのコラボ宣伝もすごい。ありがとう!!!
- 課題に「人材育成」とあるが、どのようにしていこうと考えているか?
- 飲食店さんとの協力はできないか?限定テイクアウトメニューなど。
- 高知ラララ音楽祭に参加させて頂きありがとうございました。高知市のあちこちで素晴らしい歌声が響くのはステキなこと。

GROUP 6

特定非営利活動法人高知障害者スポーツ地域振興会

～障害者スポーツを通じて障害者理解を深め、共に生きる地域づくりをめざそう～



小中学校への出前体験教室は、中学校4件、小学校2件、また、親子や地域のグループを対象とした、春野の障害スポーツセンターでの体験教室は3件と、回数が増えている。ボランティア募集については、ボランティアガイダンス2013に参加しての成果があまりなかったが、メディアに取り上げてもらった機会もあったので、少しはアピールできたのではないと思う。東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、私たちのチームから日本代表選手が選ばれたので、今後は、そういった競技性の高さ、面白さといったところもアピールしながら、広報活動に力を入れていきたい。

VOICE

- オリンピック、パラリンピックに向けて、盛り上がりそうな予感がする。
- 活動が広がっていて素晴らしい。映像を見て、体験してみたいと思った。
- 出前体験交流学習はいいアイデアだと思うし、参考になった。
- 壊れてしまった車椅子は修理するのか、それとも新しいものを購入するのか?
- パラリンピック日本代表の選手の講演会を開催してみたらどうか?
- 各教室の会場で、車いす修理金の募金箱を置いたらいい!

GROUP 7 特定非営利活動法人福祉住環境ネットワークこうち

～高齢になっても、障害を持っても、出掛けたいまちの実現に向けて～



学生ボランティアに、商店街での聞き取り、お店の特徴や段差なく行ける所を調査してもらった。最終的に、それらをまとめてバリアフリーマップを作成したい。アンケート調査については、デリケートな内容なので、高齢者支援センターや障害当事者の団体等を訪問し、説明をしてから送付協力をお願いする予定。勉強会では、街へ出掛けたい当事者の公共交通利用サポートを通じて、商店街の理解にどうつなげればよいかを調査している。また、「タウンモビリティ通信」を発行し、商店街や利用したい人たちに配布。「興味を持って出掛けてみたい」という思いの人をもっと増やしていきたい。

VOICE

- 最近、おまちでよく車いすの方を見かける。活動のたまものだと感じている。今後も続けてほしい。
- バリアフリーマップを作製した後は、どちらに配布するのか？
- 商店街関係者との関係は進んでいるのか？
- アンケート結果をもとに、行政と協力して、多くのことが改善されることを望む。
- 毎月第2土曜日、ボランティア人数が増えているとのことなので、もう少し回数を増やす試みを！

GROUP 8 Sunday Market Supporters

～若者による土佐の日曜市の活性化に向けた取り組み～



10月、日曜市の6店舗で購入してくれたお客さんに景品をプレゼントするというスタンプラリーを実施。新聞掲載や小学校5校へのビラ配りを通じ48名の人に楽しんでもらい、利用者の拡大と出店者の売り上げ増につながった。出店者にルールや商品券の使い方をよく把握してもらっておくこと、メディアによる広報をもっと早めにしてもらうことなどが課題。その他、休憩所や観光案内所の運営、出店のお手伝いも継続しながら、文旦収穫の農業サポート、高知大学の学祭で日曜市の食材を使った料理の販売、出店者にカイロのクリスマスプレゼント、高知商業生と協力して手作りイベントの実施をした。

VOICE

- 若い世代による日曜日活性化。
- スタンプラリーを行ったことは、参加したいという感情を引き出せる案として良い案だと思う。
- 後輩への引継ぎの上にもどのような取り組みをしているのか？
- 日曜日、当日の出店者さんへのサポートは、どんな形があるのか？
- 「こたつ」が一番目立つので、常にシンボルになるようなものがあったら…(アート系の)。
- 県外客とのコミュニケーションも、今後に検討してほしい。

2013年度助成団体の活動紹介



秋山こだま会



ちっちゃなお店の勉強会



Sunday Market Supporters



特定非営利活動法人要約筆記 高知・やまもも



森の中の高知駅



食を考える委員会



高知街ラ・ラ・ラ音楽祭2013実行委員会



特定非営利活動法人福祉住環境ネットワークこうち



特定非営利活動法人高知障害者スポーツ地域振興会



こうちネットホップ



2013年度〈中間発表会〉を終えて

運営委員長 増田 和剛 (高知中・高等学校教諭)

皆さんの発表を聞いてみると、広報活動に非常に苦勞されているということを感じました。日々の活動を、第三者に伝えるためには、まず自分たちの活動を「消化」し、活動の記録として「文章に書く」ことやメディアにおこすこと。その時、第三者への見せ方として、自分たちのやっている活動をいかにPRし、今後の活動の方向性について考えていくことが大切です。この表には見えない活動を実践していくことで、自分たちが「なぜ今やっているのか」という課題を明確にし、訴えかけていくことになるのです。これからは、広報紙や新聞での掲載、インターネットやスマートフォンなどの情報発信は、幅広い層の皆さんに日々の活動実践を読んでもらう絶好のいい機会です。

「まちづくりははじめの一步」コース、「秋山こだま会」の子どもたちを取り込んでいく手法、そして、一軒一軒、案内を配っていくといった汗の努力。これは、どの活動にとっても原点となる場所ですね。そして、「ちっちゃなお店の勉強会」も歩み始め、いろいろなことをたくさんやってみたいという熱意を感じましたが、まず何ができるのか、また、どのくらいの活動ペースで実現をしていくのかといった計画を立てること。そして、今後の活動で、もっといろいろな方に知ってもらうことにも力を入れていただきたいと思います。

次に「まちづくり一歩前へ」コース、「要約筆記高知・やまもも」の「本当の支援をしていく」という、

その言葉に感動しました。動画の効果、ありますね。やはり、目で見る、聞く、そして体験する、ということでは、今後も伸びていくであろうと思います。

「食を考える委員会」はヘルパーさんが忙しく、なかなか集まりにくいという悩みでしたが、後半の活動では、情報の伝え方について検討していただけたらと思います。「森の中の高知駅」はPR活動を積極的にできていました。今後は、できるだけたくさんの方に関わっていただいて、将来、高知駅が本場の森の中になっていくことを願っています。それから、「高知ネットホップ」は助成二年目ということで、定着度が増してきているような気がします。いろいろな方が活動に対して興味をもち、「そういう活動をしているところへ行ったら、相談にのってもらえるんだ」と思えるような活動で、好感がもてました。

「高知街ラ・ラ・音楽祭2013実行委員会」も二年目の助成ですね。一番嬉しかったのは、他の助成先団体などを巻き込んだ活動だったこと。音楽を楽しむ滞在時間も増えてきているということ、まちの活性化につながっていると思います。「高知障害者スポーツ地域振興会」は三年目の助成で、二〇二〇年のパラリンピックに向けて、非常に効果がある活動ではないかと思えます。「福祉住環境ネットワークこうち」は、今後の取り組みで、商店街と連携した地道な活動が必要かなと思いました。「Sunday Market Supporter」は、「はじめの一步」コースから始まり、「一歩

前へ」コースは二年目になります。先輩から活動を引き継いでいく中、これまでで一番成長が著しい伸びを示しているようで嬉しく思っています。

今回の発表会でも、熱心にメモを取っておられましたが、記録をとる（書く）ことは活動の原点です。書いているときは気づかなかったことも、活動をしなから、ふとした時の思いと、書いたことがつながって、形になったりもします。まちづくり活動は「なるほど」と思うたびに一歩前進する地道な活動です。今後、まちづくりファンドの公開の場が、高知市のまちづくりをより一層、元気にさせていく大きな力になることを願っています。



「運営委員の紹介」



運営委員
池 美保子
(高知県立大学
社会福祉学部)

審査会で活動が漠然としかイメージできませんでしたが、今日の報告と今後の展望を聞き、事業計画が具体化して、前に進んでいることを実感しました。ネットワークを結び、他の人たちの協力も得て、それぞれ課題解決に向けて活動していることを高知市民に届けてほしいです。ファンドを活用しての活動に、使命感をもって、皆さん、頑張ってください。



運営委員
川村 聡志
(高知大学農学部)

意見交換では、活動をいかに伝えていか、また、継続性や資金などについて、皆さん、興味を持っておられたようです。事業を実施していく部分にエネルギーを使ってしまい、広報まではなかなか...という面もあると思いますが、他の人につなげていくような「ファンづくり」を頑張ってください。僕も微力ながら皆さんの活動を広めていきたいです。



運営委員長
増田 和剛
(高知中・高等学校教諭)

大事なことは、今やっている活動をぜひ、ブランド化してください。そして、感動を伝えてください。活動をした時に「なるほど」と思う瞬間的な気持ちがあるのが活動の楽しさへとつながっていくプロセスを、誰もが経験したことがあると思います。このまちづくりファンドも、この『なるほど』を大切に、まちづくり活動をサポートしていきたいです。



運営委員
近藤 昭仁
(元高知市市民協働部長)

皆さんの発表を聞いて、高知市の地域活動が皆さん方の地道な活動に支えられているというふうに感じました。広報に苦勞されていて、「テレビ、新聞に投げかけたが反応がなかった」という団体さんもいましたが、マスコミによる広報はとても大きいと思いますので、取材依頼はあきらめず、素晴らしい活動を続けていってほしいと思います。



運営委員
川崎 敬子
(グラフィックデザイナー)

事業を着々と進められていて素晴らしいと思いました。活動のテーマとしては深刻なものもあり、悩みもたくさん抱えておられると思いますが、継続していくためには、仲間が集まった時にホッとしたり、喜んだりして、楽しみながら活動すると、人が集まってきますので、ぜひ、笑顔で取り組んでください。また、半年後を楽しみにしています。



運営委員
宮地 貴嗣
(ラ・ヴィータ宮地電機株)

皆さん、ご自分の事業は、こだわりを持ってやっていると思います。今日、他の団体の事業を聞かせてもらって、どうでしたか？自己満足ではなく、本当に高知市民の役に立っているのか？と自問しながら、できるだけたくさんの人に知ってもらって、共感してもらおう。「市民の生活が何か変わった」と言われるような活動をめざして頑張ってください。



運営委員
四宮 成晴
(四宮計画事務所)

発表会では助成事業が遂行されていることへの関心はもとより、団体としての成長や、まちや人が元気になっていく様子を肌で感じることが出来ます。助成先団体から提起される新たな問題点や課題も会場全体で共有し、応援メッセージや課題解決へのアイデアなどの声があがることに心が踊り、うれしくなっています。がんばれ、助成先団体！



運営委員
堀 洋子
(社)高知県建築士会)

助成先団体の皆さんが協力して、いろいろな情報を発信できるような日を待ち望んでいました。ファンド11年目にして、「高知街ラ・ラ音楽祭実行委員会」さんが、コンサートで、そういった場をつくり、広報活動をされたと聞いて、非常に嬉しく思っています。また、皆さんの地道な活動が、今後、高知市を良くしていく施策に反映されることを期待しています。

運営委員 退任のお知らせ

2014年3月31日(月)をもちまして、野村清司運営委員が退任されることになりました。より良いまちづくりをめざして、応募団体への貴重なご助言をいただき、ファンド運営にご尽力くださいました。どうもありがとうございました。

◆ 寄付のご紹介

～当ファンドに寄付がありました～



当ファンド2005～2007年度の助成先団体「御置瀬ひもの祭り実行委員会」で、美味しい干物づくりや、人と人があたたかく交流できる祭りの企画で、高齢化が進む御置瀬地区を元気にしようと、生前に尽力された 故 城下秀二さん。

審査会や発表会での紙芝居「黄金バッド」の披露や、奥さまの美穂さんによるパネルシアターなど、工夫を凝らしたプレゼンテーションが印象的で、助成活動期間中であつた2008年には、バザーの売り上げ5,030円をファンドにご寄付くださいました。

ファンド卒業後も、テレビでの応募団体募集告知に快くご出演くださり、秀二さんを隊長に、高知市・四国銀行・高知市市民活動サポートセンター事務局と寸劇スタイルでPRしたことは、楽しい思い出のひとつです。

2014年2月、美穂さんが「まちづくりファンドは、やる気はあるけど、お金がない私たちに知恵と元気と勇気をくれました。感謝の気持ちは忘れません」と、城下秀二さんのお名前、ファンドに10万円のご寄付をくださいました。

高知市民の税金や個人等からのご寄付がファンド基金の源で、運営委員、事務局とも、設立当初から襟元を正した運営に努めておりますが、このたび、故人やご家族の皆さまの、尊いご遺志に接し、審査や助成金の使途確認について、今後も厳正であり続けたいと改めて思いました。

心より厚く御礼申し上げます。(事務局)



公益信託「高知市まちづくりファンド」

助成コース紹介

A:「学生まちづくり」コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない学生団体の活動を支援します（構成員のうち3名以上が18歳以上の学生であること）。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します（助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます）。

B:「まちづくりはじめての一步」コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します（助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます）。

C:「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援します。

助成金額 上限30万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

D:「まちづくり拠点整備」コース

高知を住みよいまち、豊かな地域社会にしていこうために行うまちづくりの活動拠点を整備する事業を支援します。

助成金額 上限100万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

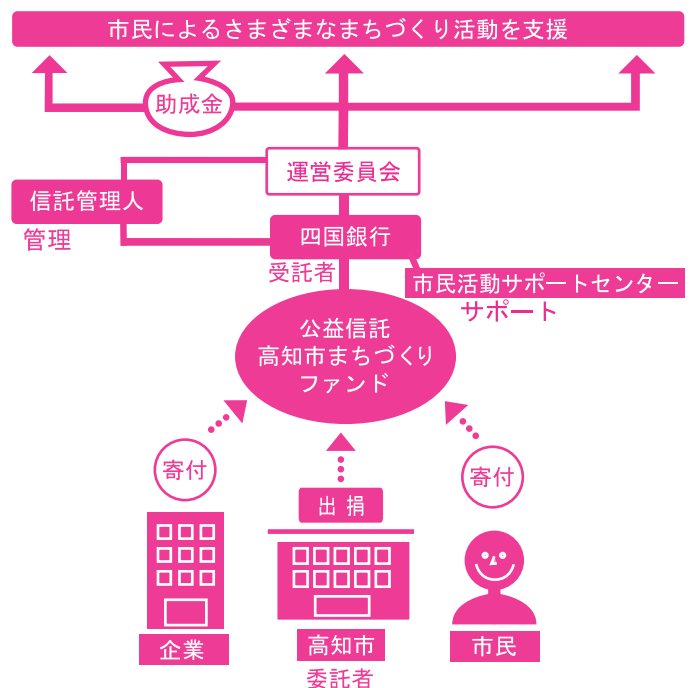
お問い合わせ先：

高知市市民活動サポートセンター TEL 088-820-1540

高知市市民活動サポートセンター

市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を「認定特定非営利活動法人NPO高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、2003年5月、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐（しゅつえん）して創設、また、2012年4月、あらたに3,000万円を追加出損しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場となることを目的としています。公益信託「高知市まちづくりファンド」の11年目となる2013年度からは制度を一新し、より利用しやすい助成金制度に変わりました。これからも多くの人にまちづくりに興味をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしています。



まちづくりファンドは皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐（しゅつえん）された基金は、毎年取り崩しながら助成していくことになります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆さまのご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行
お客さまサポート部 信託担当

〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1
電話：088-871-2308（直通）

2013年度事業のまちづくりファンド（予定）

審査会・発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。場所は、高知市保健福祉センターを予定しております。

B:「まちづくりはじめての一步」コース C:「まちづくり一歩前へ」コース (2013年度助成事業)

最終活動報告書の提出期限 **7月4日(金)** 最終発表会 **7月26日(土)**

2014年度事業のまちづくりファンド（予定）

全コース共通

《応募受付期間》

4月21日(月)～6月5日(木)

◆事前説明会 **5月9日(金) 18:30～20:30**
5月11日(日) 10:00～12:00

◆公開審査会 **7月27日(日)**
※A・Bコースについては、書類審査のため活動紹介のみ行う

中間発表会 **2015年1月25日(日)**
最終発表会 **2015年7月25日(土)**

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
TEL:088-820-1540 FAX:088-820-1665
E-mail: npokochi@siminkaigi.com URL: http://www.kochi-saposen.net/

R100
古紙配合率100%再生紙
を使用しています